

自己評価及び外部評価結果

平成26年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471902120	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	NPO法人ふれんど			
事業所名	グループホームふれんど			
所在地	(〒238-0024) 横須賀市大矢部3-30-6			
サービス種別 定員等	□ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
	■ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成	評価結果 市町村受理日	平成27年4月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしく、生き生きと過ごしていただいております。職員同士、励ましあい、刺激しあい、切磋琢磨しています。グループホームふれんどは、京浜急行北久里浜駅より、バスで10分。バス停「佐原橋」から徒歩10分、高台の静かな住宅地の中にある。下方は、横浜横須賀道路佐原インター。ホームのすぐ近くには、大矢部小学校があり、子供たちの元気な声が弾けている。建物は、2階建の洋風民家で、かなりの改修をして、11年前、NPO法人グループホームとして開設した。同一敷地内には、8年前より、小規模通所介護事業所を併設している。ホームの運営理念は、入居者様の過ごしてきた長い人生の歴史を大切に、その人らしい生活を大切にしていきたい。職員は、笑顔と誠実と細かな観察、臨機応変とし、目につくところに貼って、職員一同常に心がけている。介護福祉士5名、調理師2名で、良い介護に反映させている。職員の在籍が長く、定着が良い。献立は、利用者の嗜好、食形態にあわせて作成されている。リビングの壁面には、利用者がつくった、ちぎり絵、行事の写真、クリスマス飾りなどが掲示され、季節感がある。近くのお稲荷さんや、公園への散歩が日課になっている。夏祭りや誕生会の行事のほか、外出計画もあり、桜の季節には、河津桜見学、秋はみかん狩り、クリスマスには近くの幼稚園のイルミネーション見学に出かけている。利用者と職員が、終日、レクリエーションを楽しみ、一つ屋根の下の大家族の雰囲気がある。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年1月16日	評価機関 評価決定日	平成27年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は京急北久里浜駅からバスで10分、徒歩7分ほどの所にあり、静かな住宅街の中にある。道路を隔て大矢部小学校があり、利用者の散歩のコースになっている。12年前に民家を改装して1ユニット7人のグループホームとして開所したが、3年前に改装し1ユニット9人に増床した。同じ敷地内にデイサービスがあり、法人は他に訪問介護と居宅介護支援を運営している。

【家族を入れたい施設】

職員や管理者は「家族を入れたい施設を作ろう」という想いでケアにあたっている。「その人らしい」を掘り下げて考え、認知症であっても今のままで暮らせる「ホーム」を目指した設立時の理念が今も活かされている。離職率が低く、職員の勤務年数が長いことも、ホームの落ち着いた雰囲気を生み出している。事情により退職した職員の復帰を受け入れるアットホームな雰囲気があり、笑いとお話の絶えない事業所である。

【地域と一体になった活動】

設立以来、町内会に加入し近隣との付き合いを重ねてきた。もともと地域の福祉に力を入れてきた経緯もあり、地域の一員として利用者と共に活動している。敬老会では100個以上の「おはぎ」を作り、近隣に配布している。庭の枇杷の実をおすそ分けしたり、散歩途中に差し入れをもらってきたりと、地域住民との交流も多い。ホームが主催する夏祭りには、近隣の方を招待している。バザーの開催に合わせ、寄付をしてくれたり手伝いを申し出てくれる方や、庭の草狩りを買って出してくれる近隣の方もいる。開設11年、地域に「ふれんどがあってよかった」と言われ、地域に溶け込んだ活動を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふれんど
ユニット名	1

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホームの見やすいところに掲示し、かつ、入居者及びご家族に分かりやすく説明している。ミーティング時、事例をあげて再三確認している。	事業所の理念として4項目を挙げ、職員は「笑顔」を大切に日々のケアにあたっている。新人研修時にはファイルにして渡している。問題があった時は理念に立ち返るよう、常に話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回し、地域の情報を得ている。ごみ収集所の清掃もしている。また、お祭りや敬老の日に近隣の方を招待したり、手作り弁当を差し上げている。	町内会に加入し、地域の一員としてゴミ当番をこなしている。近隣の2つの中学校から体験学習を受け入れている。事業所の夏祭りや敬老会には近隣の方を招待したり、おはぎを配ったりしている。フラダンスや囲碁、読み聞かせなどのボランティアを受け入れている。近隣の方が草刈りを買って出してくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のお年寄りの危険状態を察知して、声掛けなどしている。しかし、もう少しきめ細かくできればいいが、その時間が無い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防訓練に参加していただき、重要な意見や感想をいただき感謝している。また、敬老の日、夏祭りに、参加していただき、楽しくお過ごしいただいている。	2か月に1度、民生委員、地域の方、利用者家族代表の出席を得て、開催している。行事報告や防災などについて話し合いを行っている。「洗濯を外注にしたらどうか」という家族の意見があり、検討したことがあった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉部指導監査課に相談や質問をよくする。入所時の注意事項、生保の方の申請相談、また、入居金についての相談もしている。	年に1度、運営推進会議に市職員が参加する機会をとらえ「いつも散歩に行く公園内に洋式トイレがなく不便だ」という話をしたところ、すぐに対応してもらえた。生活保護受給者の受け入れも行政と協働して行っている。災害ネットワークづくりに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対に拘束しない。 ご家族に頼まれてもしないことに徹底している。	市の虐待防止の研修に参加し、ミーティングなどで伝達している。言葉による拘束については、職員同士で注意し合っている。2階の階段は夜間のみ柵をして安全面に配慮している。玄関は道路に面しているので日中でも施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政で行われる研修に積極的に参加し、職員一人一人が虐待しないことを常識としてとらえている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がいる入居者もあり、人間としての要求の本質を学んでいる。また、公的機関の行う研修に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明や医療連携の状況、みとりの説明など納得している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	度々、ご家族がいらした時に、意見や要望を聞いている。 こちらから、ご家族に連絡し、相談することもある。	来所時に意見を直接聞いたり、面会簿の意見・要望欄に記入してもらっている。運営推進会議に家族代表が参加しており、避難訓練やスプリンクラーの事業者についての意見等ももらっている。年に2回のイベント時に、家族交流会を開いており、家族代表が中心となり交流している。備蓄の米の確保について、家族から提案がされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開き、その場で様々な介護の問題を出し合い、忌憚なく話しあい、日常的に反映している。	毎月ミーティングを行い、情報の共有、カンファレンス、研修等を行っている。意見も多く時間が延びることが多い。「去年の振り返り・今年の抱負」を全職員が作成し、新年のミーティングで発表する。さまざまな行事を「実行委員」が企画するようにし、職員の参加意識も高まった。「いつまでも歩けるように支援したい」という職員の意見から、夜間でも手引き歩行でトイレに誘導することにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがもつ、家庭環境や体調などを把握、無理のない職場環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人の新人に一人の先輩職員につき1対1で教育にあたる。又、外部の研修に、出来る限り公平に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会が小規模事業研修の連携をして、研修やホームの相互研修を行っている。また、災害ネットワークもつくられており、質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何故ここにいるのか、ここはどこか、どういう質問に対し、職員の答えを統一したり、何が心配なのか、注意深く聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対する不信感、妄想や絶望を一つずつ納得するまで聞く。でもここは安心よ、をわかっていたいただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体調、認知度を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一勤務の中で必ず顔をあわせ会話し、笑顔を確認することを決まりにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、いい関係を保っているが、職員の思いと家族の思いに温度差があるときは難しい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけたり、かかってきたりしている。また、自由にいつも面会に来ていただいている。また、まつり、敬老の日などにお誘いしている。	敬老の日のイベント用に「一番輝いていた時の写真」を持ってきてもらい、利用者アルバムを見て昔話をすることが増えた。昔住んでいた所の「送迎付きサロン」に月2回参加し、近所の人に会うのを楽しみにしている利用者もいる。出身地の力士を応援する利用者と共に、テレビで相撲中継を見ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで体操、ゲーム、散歩、協同の作品をつくるなどしているが、認知の差が大きい方などもっと工夫が必要である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養ホーム、入院など、日ごろより連携している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望は把握しているが、運営上すべてを実現できないので、みんなで検討している。	入居前に自宅で家族や民生委員、在宅のケアマネジャー等から情報を収集し、アセスメントを行う。散歩や入浴時、夜勤の時などに過去の生活や本人の思いを聞くことが多い。「安心して過ごしたい」という思いに応えられるよう、カンファレンスで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味など		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全て記録している。 排泄、水分量、食事		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をつくり 家族に送り印をいただく	週末・祝日の家族の来所に合わせて、サービス担当者会議を行っている。訪問医の意見や訪問看護師の情報を基に、医療の情報も取り入れて計画を作成している。毎月のカンファレンスで職員と情報を共有し、毎日計画通り実行したかを記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全て記録している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出したり、お墓詣りなど		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の体操教室 町内会のレクリエーション 運動会		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している	月に1回協力医が往診している。訪問看護師は毎週来所している。認知症専門医の往診が隔週であり、記録をファックスしてもらい情報を共有している。訪問歯科は必要時に依頼している。皮膚科や整形外科などの専門医は原則家族が受診に同行しているが、ケアマネジャーが同行することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護計画担当者が主な窓口になっているが、もう少し、職員が自由に気付いたことを、医療者に訴えてもいいと思っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換をある程度しているが、個人情報だからと教えてもらえないことが多く、大変困惑することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の方針を決めてあり、末期について十分に対処している。	入居時に「重度化した場合における指針」を説明し同意を得ている。その後も折ある度に「重度化した場合における申し合わせ書」で意思の確認を行う。医師がターミナルと判断したら「看取りにおける指針」で事業所ができることを説明し「看取り同意書」を取り交わして「看取りについての進め方」で説明し看取りケアを行っている。今までに3人の看取りを行った。職員は外部研修や内部研修で看取りについて学んでいる。昨年看取りを行った後のミーティングで、職員から感想を聞いたり訪問看護師の振り返りを行い、家族からの感謝を伝えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないがミーティングや訓練時に力をつけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームとしては、かなりやっているが、地域の人を巻き込むことはまだできていない。	年に2回防災訓練を行っている。今年度は運営推進会議時に防災訓練を行い、民生委員や近隣の方の参加を得た。昼間想定と夜間想定で、1日に2度火災時の避難訓練を行った。多くの意見が出て、今後の参考になった。現在スプリンクラーの設置工事が行われている。防災備品は床下に3日分の食料があり、その他に水や防災ずきん、カセットコンロなどを用意している。	備蓄はリストを作成し、賞味期限や品数などの管理することを期待します。また、いざとなった場合の取り出しを考え、備蓄の保管方法の工夫を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しているが、つい親しみと慣れが出来てしまい、反省することもある。	生活歴を考慮し、ニュアンスを変えてその人に合った呼びかけを行う。本が好きで一人を好む利用者にはあまり声をかけず、難しい漢字のゲームや読書の話をしている。トイレの誘導は耳元で「ちょっと来て」と呼びかけ、動き出してから「トイレに行きましょう」と誘うなど工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の着替え、何が良い、どこに行く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩したい人と散歩に出る。歌を唄いたい人、静かに本を読みたい人など、すべて個々に対処している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、着替えの時や入浴時に、「どれにしようか」と選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味見をしてもらったり、きれいな盛り付けをするなど、工夫している。お茶碗を拭いてもらったり、テーブルを拭いてもらったり、お手伝いをお願いしている。	調理師の資格を持っている職員が2名おり、食形態や栄養面で工夫をしている。食材は主に生協で調達している。メニューは利用者の希望を聞いたりして決めている。職員も同じ食事を会話しながら楽しんでいる。誕生日には希望の食事を用意する。庭のふきのとうやみょうが、枇杷の実などが食卓に上る。外出の際は外食することが多く、利用者も楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	万全にしており、記録もとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを全員している。就寝時は、入れ歯を外し、薬液につけ、一晚消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	万全に支援している。	利用者全員に対してトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレを利用している方が2人いるが、できるだけトイレ誘導するようにしている。チェック表により排泄パターンを見極めてトイレ誘導を行い、自立の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分にとっていただき、万全を期している。記録もとっており、記録から変化に気づけるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	壁に入浴表を貼り出し、楽しみにしてもらっている。	日曜以外の日の午後に入浴している。一人ひとりの「入浴セット」を用意し、入浴剤や石鹸など、好みのものを使用している。入浴したまらない方にはタイミングをみて誘い、職員がマンツーマンで接する時間を大切にしている。浴槽内に段があり、ふちも低くしてあるので、入りやすい。浴室には暖房乾燥機があり、ヒートショック予防に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	万全に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に薬箱があり、その用途や目的など職員も把握して、時間を決めて服薬している。記録も間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味が違い、各人の特異な分野でリーダーになっ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩したい人の希望に応じて、お天気がよければ必ず散歩に出ている。	神社や公園などに天気の良い日は散歩に出かける。隣の小学校の校庭で遊んでいる子供たちを見るのが日課になっている。中庭に椅子を並べ日光浴や、歌を歌ったりお茶をすることもある。行事として三浦海岸の河津桜や津久井のみかん狩りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持してもらっていない。すべて預り金としている。ただ、買い物に行くときには、預り金から少額を所持してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由になっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室に帰らないほど、一日中リビングに居る。	1階のリビングを増築し、窓も大きく取り明るくゆったりと過ごせるようになった。リビングと台所が一体となっており、食事の支度中に、匂いや音を感じ楽しむことができる。庭には実のなる木があり、職員が大切に育て、季節感を楽しめるようにしている。2階には手すりの他、階段昇降機が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分している。	居室は1階に3室、2階に6室ある。居室には、冷暖房機と押入れ、ロッカーなどが備え付けられている。桐ダンスやテレビ、将棋盤や藤のいすなどが持ち込まれ、居心地良い部屋となっている。慣れ親しんだ家具を見るとかえって混乱してしまう場合は、押し入れにしまうなど配慮している。室内の乾燥に対しては、除湿機を使ったり濡れタオルを使用したりして工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームふれんど

作成日 平成27年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策として備蓄は床下収納庫以外の軒下に収納している床下の収納は取り出しにくい時がある。	備蓄の安全保管と取り出しやすいところに保管し緊急時にあわてないようにする。	防災頭巾、薬品等はわかりやすい取り出しやすい場所に保管する床下収納庫の上には何も置かないように目印をつける。	5月31日迄に達成する。
2	26	介護計画作成の件介護職員の意見、ご家族の希望等が入っていない。	ご家族や職員の意見が入った、皆んが納得する計画を作成する。	ご家族には面会時に直接相談する、来られない方には電話をしたりお手紙を出す、職員にもミーティング時等に意見をよく聞く。	すでに順次相談をしている。職員にも4月のミーティングより意見を聞いている。今後ずっと続けていく。
3	51	入居者様のホームでの生活、イベント情報がわかりたいとのご家族の希望がある。	2月に1度外出やホーム内でのイベント情報をご家族へ送付。	「ふれんど」通信を作成し面会の時、手渡したり送付する。	すでに「ふれんど」通信を発行している。今後ずっと続けていく。
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。